



報道「日本画見たさにふらりとアメリカ娘

ひよっこり春陽会研究所へ」

『東京日日新聞』

昭和五年八月十日

九日午後三時半、内幸町の幸ビル四階、春陽会研究所に見なれぬ若いアメリカ女性が一人でポツカリ訪れて来た。尋ねてみるとこのお嬢さんは、カリフォルニア、パサディナのマツキンレー・ジュニア・ハイスクールといふ小学校の絵の先生で、ルシー・ビルングスさん（二六）。

ビルングスさんはこの夏休みを利用してホノルルで展覧会を開きに来た。それが終わると、かねて好きだった日本画を見たい気持が押さへきれずに、ブラ／＼と日本まで足を延ばして、去る三日横浜へ上陸してしまった。来ては見たもののどこへどう行つていいのか見当がつかず、ただ春陽会の夏季講習会を聞きつけてそこへ現れたといふわけ。

そこには丁度、木村荘八、小杉放庵、中川一政氏や南画院の岸浪百艸居士まで居合わせたため、珍客が舞ひ込んだと一同大喜び歓待これ務めた。ビルングスさんも初めて救われたようで大はしゃぎ、折から講習中の生徒に混じつて「この絵はアメリカ人が描いたものどちつとも変らない、もつと日本人特有の絵はないのか？」とそこら中を約一時間もかきまはして、矢継ぎ早に質問をなげかけるといふ騒ぎ。

ビルングスさんの話。

「とう／＼あこがれの日本に来てしまったので、何とかして日本に一、二年滞在して本式に日本画を教はりたい。学校などではなく何か日本で仕事はないでせうか？ 今日皆さん会ったのでこれを手蔓に出来るだけ沢山の日本画家に会って廻ります。旅行のプログラムなど全くありません。  
 (写真は春陽会研究所におけるビルングスさん(中央)。嬢の右手前が木村莊八氏。左手少し奥・ネクタイが小杉放庵氏)

『アトリエ』八月号に掲載した「春陽会夏期洋画講習会」の広告

## 春陽會夏期洋畫講習會

會期 昭和五年八月一日ヨリ十日マデ十日間  
 會場 東京市麴町區内幸町一、幸ビル、四階 春陽會洋畫研究所

講習科目 素描(石膏、人體) 彩畫(靜物、風景、人體)  
 美術講話 指導者 春陽會々員

足立源一 長谷川 裕伊之 林井 鶴三 石村 莊八 木村 一 中川 本一 山堀 角次 横堀 角次郎

入會希望者ハ規則書ヲ研究所ヘ申込マルベシ  
 春陽會洋畫研究所

八月	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日
午前自九時 至十二時	素描 人體	同	同	クロッキー(人體)	彩 畫(人體)	同	同	同	同	同
午後自一時 至五時	講話彩畫(靜物)	同	同	風景寫生	同	同	講話彩畫(靜物)	同	同	茶話會